

第3回 金沢湯涌江戸村活性化検討委員会 議事録

■日程・場所

日時：令和7年1月21日(火)10:00～12:00

場所：金沢市役所第一本庁舎 7階 第1委員会室

■次第

1. 開会
2. 局長挨拶
3. 議事
 - (1) 金沢湯涌江戸村活性化プラン（案）について
 - (2) 管理棟の新築について **非公開**
4. 閉会

■会議録

1. 開会

2. 局長挨拶

委員の皆様におかれましては、御多忙のなかご出席いただき重ねてお礼申し上げる。また日頃より本市の文化政策の推進に關しご指導ご助言を賜り、厚くお礼を申し上げる。10月に開催した第2回委員会では、金沢湯涌江戸村の活性化に向けた具体取り組み(案)や管理棟の平面図(素案)について意見をいただいた。今回はそれらを踏まえ、金沢湯涌江戸村活性化プラン(案)と管理棟の新築設計(案)についてご意見をいただきたい。委員のみなさまには忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げる。

3. 議事

(1) 金沢湯涌江戸村活性化プラン（案）について

委 員 長： 会議次第に従い、議事（1）金沢湯涌江戸村活性化プラン(案)について事務局から説明をお願いする。

事 務 局： 一資料説明—

資料1 「第3回金沢湯涌江戸村活性化検討委員会」

G 委 員： 湯涌江戸村の運営にあたり維持保存会として、誰の意見を聞き、また誰に意見を言って活動を進めていけばよいのか分からぬ。少人数で動いているが、いつも不安に思っている。

D 委 員： 保存会の方々には、いつもお世話になっている。湯涌江戸村の管理運営にあたり、湯涌江戸村が主体で行う事業と保存会が主催される事業があり、これまでそれぞれ思いを持ちながら運営してきたように思うが、指示系統が分からぬというご指摘だったと思う。本来であれば、年間の事業やイベントスケジュールを年度前に下打合せをして、そこから役割分担や差別化ができると良い。現在は、マンパワーが足りないこともありお互い遠慮しながら活動している。今年度職員が入れ替わったこともあり、コミュニケーションがうまくとれていたこともあるため、今後改善していきたい。来年度に向けての打合せを今年度内に行えれば良い。

G 委 員： 保存会のメンバーは高齢化しており、身体的にもこれからより制限がありそうである。これまで15年間、湯涌江戸村を守ってきたが、保存会の人数が増えているため限界もある。

また繰り返しになるが、村長に全て意見を言えば良いのか、他の人に言えば

よいのかわからない。展示物においても、「なぜあれを展示しないのか」という意見が保存会の中もある。

委 員 長： 今回の活性化プランの中に、維持管理・運営体制の図があった。今後運営ボランティアをどのように募るのかが課題になる。その際に今どのような作業があり、どこを手伝って欲しいのか、今までの運営の仕方を一度整理しながら、足りないところを手伝ってもらうという進め方になると思う。

また、リプランディングしていく中で、いかに新しい湯涌江戸村を発信していくかという視点では、外に発信するだけでなく関係者内で思いを共有する「内部のプランディング」も必要だと思っている。内部のヒトの思いがつながり、外に発信できることが重要だろう。

G 委 員： 今後イベントをする際には、飲食物を提供することも考えていかなければいけない。以前は自動販売機が村内にあったが、現在はなくなっている。なぜ湯涌江戸村だけが自動販売機がないのかは疑問である。従業員も飲みたい時があるので再設置を検討いただきたい。

事 務 局： 維持管理・運営体制について、運営ボランティアを含めた運営体制を今後構築していきたい。また、リプランディングも含めて今回の活性化プランを実現させるために、今後定期的に関係者が話し合う機会を設けることが必要だと思っている。市、保存会、観光協会、湯涌江戸村の職員を含めた定例会議で目標を共有し進めていきたい。指示系統については、湯涌江戸村だけに任せることではなく、市も積極的に関わりながら地元の意見等を聞いていきたい。

B 委 員： 先程、委員長から内部のプランディングも重要だと話があったが、外から運営に関わる方にどのように参加してもらうのか、組織作りをしていくのかを検討していく必要がある。個人的にできるとしたら学生を送り込むことだが、具体的に実行委員会等が開かれていてそこに参加することはイメージがつくが、保存会の定例会議に参加するとなると内々な感じがするので、組織もどうリプランディングできるかが課題であろう。周辺関連施設との連携だけでなく、リモートでも関われる、一度訪れた人が関わってみたいと思うような関係人口的な関わり方ができないかと思った。「あなたも村民になれる」「離れていてもサポートできる」等、ふるさと納税のような関わり、組織の在り方がリプランディングできると良い。

委 員 長： 固定的な組織は固まっているがその周りに支えてくれる方がいて、常に入っているなくても一時的に参加するなど関わり代は色々考えられる。プロジェクトベース、イベントベースでの組織づくりも考えられるが、コアな部分を強固に

し、関わり代を伸ばす方向性が良いと思う。

C 委 員： 周辺施設との連携において、今年度湯涌地区ではまちづくり協議会を立ち上げている。今年度の観光の目玉として、創作の森、夢二館、湯涌江戸村を周遊して歩いてもらうことを観光協会と一緒に構想中である。ただ、どのような方をターゲットにすればよいのかはまだ分からぬ。周遊して湯涌江戸村、湯涌の魅力を発信していきたいと思っているため、皆さんの知恵を借りて事業を行っていきたい。

委 員 長： 来てもらった時に湯涌江戸村だけでなくいかに周辺施設や地域を周遊してもらうか、どう発信していくかは大事である。交通事業者との関わりも足がかりにしながら考えられるとよい。

F 委 員： 湯涌温泉としては、湯涌江戸村は重要な施設だと考えている。湯涌温泉として何ができるかはまだわかっていないが、皆で話しながら考えていきたい。

E 委 員： 湯涌江戸村のような民家を保存している施設で構成される全国文化財集落施設協議会という集まりが年1回開催されており、今年は川崎民家園が幹事だった。川崎民家園は、設立55年、ボランティアが30年記念でもあったため、この会議に合わせてこれまでの振り返りを行った。基本的に民家を守っている施設は野外博物館として位置付けられており、建築を守ると同時に民俗学の博物館としての機能を持っているため民俗学に精通した学芸員が必要となる。湯涌江戸村では技師の方が学芸員を兼ねているが、本来は民俗学に精通した学芸員の配置が必要である。建築に関しては村長と技師、運営に関しては民俗学に精通した学芸員で行うことを理想としていただきたい。

資料15~16ページに、みちのく民俗村の事例を提示しているが、湯涌江戸村も地方性重視の施設として、地域の中でも様々な生活文化があるということを知ってもらうための重要な施設ではないかと考えている。川崎民家園では、建築と民俗のバランスをよく考えていた。19ページでは、民家の周りで技を見せてくれる人に協力を仰ぐうえで、民俗学に精通した学芸員が対応を行い、活動記録を作っているということもある。20ページ、21ページは民家の活用だが、やはり飲食物の提供は、湯涌温泉に隣接する施設として可能性が高く、できるところからやっていくとよい。21ページは民家園まつりについてだが、湯涌江戸村も湯涌温泉のお祭りと併せて開催することは非常に可能性がある。お月見も兼ねて夜間公開にもつながる可能性もあるため、すぐできることと今後工夫していくことを加えながら今回の計画を具体的に示していくとよい。24ページでは、床上にあがって囲炉裏端で来園者とボランティアが交流する事例だが、これも湯涌江戸村で実施し深めていければよいと思う。25ページにボランティ

アが生まれた経緯も掲載している。26 ページは移築先との交流についてである。ボランティアが民家を説明する際に、その民家がどこからきたのか、所有者と会って話したことも伝えていきたいということで、現地をボランティアが訪ねるということであった。湯涌江戸村では、これをツアーにすることも面白いと思った。川崎民家園では一般の方向けのツアーは行っていないが、逆に移築先から来ていただく事例として 27 ページには、五箇山からキリコ節を実演してもらったり、その時に郷土のお土産を買えたりという相互交流をいくつかの地域と行っている事例がある。先ほどのツアーと同時に相互交流も考えられるのではないか。28 ページは具体的な発信をしていく中で、民家の面白さや生活の奥深さを伝えていくために、学芸員が中心となってしっかりと情報を伝えていく必要があるため、建築と民俗学のバランスがとれた方法を 1 つの目標としていただきたい。30 ページの情報発信や環境整備など運営管理については、既に進めていることの課題を考える上でも建築と民俗学のスタッフ、市、協力者の連携が必要になると思っている。32 ページでは、大学との連携の可能性について示している。事務局まで引き受けることは大学ではできないため、学生の受け入れ先としてどうマネジメントしていくかが重要であり、学芸員の人が一人いて連携していくという体制がないと現実的には難しいだろう。横浜国立大学では、民家の中に、その民家の模型を作って学生が説明を行った。大きすぎてわかりにくいところは模型を用いると理解しやすく関心が高まる。湯涌江戸村にある模型をどう活用していくかもリブランディングに繋がっていくと思う。36 ページ、子ども達に伝統文化と建築技術の面白さを伝える体験をしてもらうことは、湯涌江戸村でも職人学校の人が何かしてくれると見せる見学会を開催するなどすぐにでもできそうで可能性がある。37 ページ、38 ページはプロの建築家が歴史的な建物を守るために勉強会をしたいということが全国に広がっており、そういう場所としても立派な建物が残されていることは極めて重要なポテンシャルがある。

委員会資料の 13 ページに記載されている計画は良くまとめられている。川崎民家園では 55 年経ってここまでできており、一度に全てができるわけではない。中長期的計画ということであれば、非常によくまとめられた計画ではないかと思った。繰り返しにはなるが民俗学に精通した学芸員は必須になるため検討いただきたい。

委 員 長： 川崎民家園はじめ全国・世界の資料があったが、具体的にイメージできたのではないか。人手が足りない中ではあるが、今後どのように進めていくかアクションプランのようなものはこのプランをもとに考えていくべき。民俗分野が大事だということもその通りであり、今後少しづつ拡充していきたい。

事 務 局： 学芸員についてはこれまでの検討委員会でもご指摘いただき必要性は感じて

いる。金沢市では、くらしの博物館に民俗学に関する学芸員がいるため、まずはアドバイスをいただき湯涌江戸村と連携できる部分を探りたい。将来的には学芸員のいる人員体制の構築も視野に入れながら湯涌江戸村をどう盛り上げていくかを検討していければと考えている。

B 委 員： E 委員の資料 37 ページにヘリテージマネージャーの記載があったが、石川県でもその取り組みがある。都道府県によって体制が違い建築士しか入れないパターンもあり石川県がどちらかわからないが、兵庫県の場合は建築士でなくともヘリテージマネージャー養成講座を受けて自分たちがその地域で守りたい文化遺産や建物があれば守っていけるということがある。石川県ヘリテージマネージャー養成講座があるので、そこに湯涌江戸村の民家を題材として入れてもらう提案もできるのではないか。

D 委 員： 石川県のヘリテージマネージャー養成講座については、職人大学校を会場として建築士会主催で毎年 10 月から 3 月頃まで行っていた。講師は文化庁の方や地元の大学の先生である。参加者の延べ人数は多いため、ヘリテージマネージャーの資格を持っている人が、湯涌江戸村にボランティアとして関与することも今後検討したい。

E 委 員： 旧園田家住宅を移築する際の研修は金沢職人大学校で受け持ち、実際に受講生が移築前の百万石江戸村の旧園田家住宅を視察した。十分可能性はあると思う。

委 員 長： 職人大学校との連携も今後考えられるだろう。

D 委 員： 私は NPO 法人石川県茅葺き文化研究会の理事長を昨年からしているが、これまでも 10 年以上メンバーとして湯涌江戸村や湯涌地区に関わってきている。そもそも NPO ができたきっかけは、湯涌江戸村が開村すると同時に何かしていかなければならぬと地元の人が立ち上がり NPO にしていったという経緯がある。茅葺きの体験学習をこれまでも行っており、笹葺きは 3 年目、今年度は芝棟づくりも NPO が協力して湯涌江戸村の中で行った。民俗的な見地を学習できる環境はあるため、リブランディングの中に組み入れて市から予算をいただければ自分たちの持ち出しでする以上に協力できると思う。湯涌の中学生にも毎年茅葺き体験をしていただいており、メンバーも元気であるため、湯涌江戸村の活性化に NPO としても協力していきたい。

E 委 員： 京都府の美山町という茅葺きの里では、観光客が民宿に泊まって茅葺きのする茅葺きを手伝う体験をし、夜は茅葺き屋さんと交流できるということで集客をして

おり若い人も参加している。修理を単なる修理と終わらせないで、茅葺について知っていただく機会、地域で頑張っている人と観光客が交流できる機会として、湯涌江戸村でも可能性がある。

委 員 長： 他に意見がなさそうであるため確認させていただく。事務局から示された金沢湯涌江戸村活性化プランについて、これで了承ということでしょうか。

委 員 一 同： 異議なし。

（2）管理棟の新築について

非公開の為省略

4. 閉会

事 務 局： 委員の皆様におかれましては、長時間にわたり活発なご意見をいただき感謝申し上げる。最後に課長より閉会の挨拶を申し上げる。

事 務 局： 委員の皆様におかれましては、本日も貴重な意見を賜り感謝申し上げる。また委員長には3回にわたり円滑な議事進行をしていただき重ねて感謝申し上げる。今回湯涌江戸村活性化検討委員会の終了にあたり、改めてお礼の挨拶をさせていただきたい。委員の皆様におかれましては、昨年6月に委嘱させていただいた後、3回の会議において金沢湯涌江戸村の活性化についてご検討いただき、貴重なご意見をいただいたこと改めて感謝申し上げる。また、局長からの挨拶にもあったように、皆様から頂戴したご意見を踏まえ「金沢湯涌江戸村活性化プラン」として取りまとめ、今年度中に委員長から市長に提出、報告していただく予定である。市としても今回のプランに示す取り組み内容、皆さんに検討していただいた内容であるが、今後の施策に着実に反映し湯涌江戸村の活性化に努めていきたいと考えている。委員会の皆様におかれましては、それぞれの立場で今後も湯涌江戸村の活性化にご協力いただければ幸いである。委員長と委員の皆様のこれまでのご尽力に心より感謝申し上げるとともに、皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、お礼の挨拶とさせていただく。本日は誠にありがとうございました。